

■ 附 錄

心岳 李崇寧先生 八旬紀念 論著目錄

高永根・沈在箕・李秉根 共編



## 目 次

|                   |     |
|-------------------|-----|
| I. 單行本            | 275 |
| 1. 國語學 著書         | 275 |
| 2. 教科書 及 指針書      | 276 |
| 3. 隨筆集・其他         | 276 |
| II. 論 文           | 278 |
| 1. 總 說            | 278 |
| 2. 音 韻            | 278 |
| 3. 文 法            | 281 |
| 4. 語 彙            | 284 |
| 5. 方言・隱語          | 286 |
| 6. 文 獻            | 286 |
| 7. 國語學史           | 287 |
| 8. 其 他            | 289 |
| III. 書評・論戰        | 291 |
| IV. 序文・祝辭・刊行辭・監修辭 | 292 |
| V. 雜 記            | 293 |
| 1. 論 說            | 293 |
| 2. 隨筆・記事          | 294 |



## I. 單行本

## 1. 國語學 著書

1949. 4. 「古語의 音韻斗 文法」

菊版 總 139 面 文化堂

\* 歷代韓國文法大系(1985), 第①部 第42冊, 塔出版社.

4. 「朝鮮語言韻論研究 第一集「・」音攷」

菊版 總 290 面 乙酉文化社

1954. 10. 「國語音韻論研究 第一集「・」音攷」(修正補修版)

菊版 總 330 面 乙酉文化社

11. 「國語學概說(上)」

菊版 總 180 面 進文社

1955. 1. 「音韻論研究」

菊版 總 572 面 民衆書館

1960. 10. 「國語學論攷」

菊版 總 404 面 東洋出版社

1961. 1. 「國語造語論攷」

菊版 總 462 面 乙酉文化社

10. 「中世國語文法—15 世紀語量 主로 하여—」

菊版 總 375 面 乙酉文化社

1966. 10. 「國語學論叢」

四六倍版 總 337 面 東洋出版社

\* 國語學研究(1972)에 3 篇의 論文을 增補하여 再錄.

1971. 3. 「國語方言學」(共著)

新菊版 總 357 面 螢雪出版社

1972. 9. 「國語學研究」

四六倍版 總 422 面 螢雪出版社

1976. 5. 「革新國語學史」(博英文庫 101)

三六版 總 217 面 博英社

1978. 5. 「新羅時代의 表記法體系에 關한 試論」(國語學研究選書 1)

總 178 面 塔出版社

1978. 5. 「濟州島方言의 形態論的 研究」(國語學研究選書 2)

總 167 面 塔出版社

1981. 5. 「中世國語文法—15世紀語彙 主로 하여—」(改訂增補版)

菊版 總 452 面 乙酉文化社

11. 「世宗大王의 學問과 思想—學者들과 그 業績—」

新菊版 總 487 面 亞細亞文化社

## 2. 教科書 및 指針書

1954. 12. 「古典文法」

總 151 面 乙酉文化社

\* 歷代韓國文法大系(1983), 第①部 第33冊, 塔出版社.

1955. 1. 「古典文法教授參考書」

總 60 面 乙酉文化社

\* 歷代韓國文法大系(1983), 第①部 第33冊, 塔出版社.

1956. 3. 「중등국어문법」

總 103 面 을유문화사

\* 歷代韓國文法大系(1985), 第①部 第34冊, 塔出版社.

3. 「고등국어문법」

總 150 面 을유문화사

\* 歷代韓國文法大系(1985), 第①部 第34冊, 塔出版社.

3. 「새 文法體系의 態度論」(고등문법 초등문법 指針書 No. 1)

總 57 面 乙酉文化社

\* 歷代韓國文法大系(1985), 第①部 第34冊, 塔出版社.

1961. 1. 「고등국어문법」(개정판)

總 152 面 을유문화사

\* 歷代韓國文法大系(1985), 第①部 第42冊, 塔出版社.

## 3. 隨筆集・其他

1968. 6. 「大學街의 把守兵」

四六版 總 452 面 民衆書館

1971. 3. 「山권을 걷노라면」

菊版 總 434 面 徽文出版社

1976. 10. 「論文作成과 研究態度—國內外 名論文 收錄—」

新菊版 總 271 面 博英社

1978. 4. 「산 좋아 산을 타니」(博英文庫 170)

三六版 總 253 面 博英社

1985. 10. 「韓國의 傳統的 自然觀—韓國 自然保護史 序說—」

新菊版 總 571 面 서울大學校出版部

## II. 論 文

## 1. 總 說

1931. 10. 한글과 宗敎, 「朝鮮語文學會報」第二號, pp. 7~9.
1932. 9. 글과 말, 「朝鮮語文學會報」第五號, pp. 1~4.
1933. 7. 世界語와 우리 態度, 「朝鮮語文學會報」第七號, pp. 44~47.
1947. 11. 朝鮮語學今後의 課題, 「朝鮮文化叢說」(1947), 東省社(方鍾鉉著  
집·발행), pp. 167~175.
1948. 朝鮮語學 概說, 「조선교육」.  
(每號 連載로 序說, 國語의 起源 等을 揭載한 것. 未完稿로 中斷됨.)
1950. 1. 우랄·알타이語의 共通特質論, 「語文」第 2 卷 第 1 號.
1954. 11. 比較研究의 可能性, 「國語學概說(上)」(1954), 進文社, pp. 53  
~76.
- \* 李基文 編「國語學論文選」回 比較研究(1974), 民衆書館  
pp. 128~138 에 再錄.
1956. 10. 言語進化의 原理, 「自由世界」pp. 232~240.
1957. 7. 音韻論의 態度論, 「文理大學報」第五卷 第二號, pp. 9~15.
1958. 3. 課題의 摸索斗 態度—國語學의 새로운 方向 轉換—, 「新太陽」  
第 8 卷 第 3 號, pp. 197~200.
- 8~10. 國語學의 方向轉換을 提議한다(1)(2)(3), 「思潮」第 3 卷  
第 3 號(pp. 16~21), 第 4 號(pp. 91~97), 第 5 號(pp. 131~137).
11. 言語와 文章, 「自由文學」第 3 卷 第 11 號, pp. 270~275.
1982. 8. 韓國學의 課題斗 方法, 「韓國學論集」第二輯, 漢陽大 韓國學  
研究所, pp. 259~261.
1983. 12. 韓國語, 「韓國學入門」, 學術院, pp. 585~600.

## 2. 音 韻

1932. 4. 類推(Analogie)에 對하여, 「朝鮮語文學會報」第四號, pp. 1~4.
12. 朝鮮語の ヒアトス(Hiatus)現象 考察, 大學卒業論文.

1935. 5. Umlaut 現象을 通하여 본 母音「·」의 音價攷, 「新興」第 8 號  
(朝鮮問題特輯號), pp. 96~113.
1939. 4. 音韻轉位 現象에 對하여, 「한글」第 7 卷 第 4 號, pp. 1~6.  
12. 朝鮮語異化作用에 對하여, 「震檀學報」第十一卷, pp. 1~42.
1940. 9. 「·」音攷, 「震檀學報」第十二卷, pp. 1~106.
1946. 7. 母音調和 修正論, 「한글」 제 11 卷 3 호(通卷 96 號), pp. 2~7.  
\* 「國語學論文選 I」(1974), 駱山書院, pp. 3~10 에 再錄.
1947. 5. 訓民正音과 母音論, 「한글」 제 12 卷 2 호(通卷 100 號), pp. 2~12.  
\* 「朝鮮文化叢說」(1947), 東省社, pp. 37~57 에 增補 再錄.
5. 朝鮮語의 히아투스(Hiatus)와 子音發達에 對하여, 「震檀學報」  
第十五號, pp. 50~89.  
\* 「音韻論研究」(1955), pp. 465~518 에 “國語의 Hiatus 와  
子音發達에 對하여”로 改題하여 再錄.
1948. 11. 「ও」音研究의 方法과 實際—崔鉉培氏에게 올림—, 「學風」第  
1 卷 3 號, pp. 60~72.
1949. 1. 母音調和研究, 「震檀學報」第十六號, pp. 1~109.  
\* 「音韻論研究」(1955), pp. 1~164 에 再錄.
4. ‘애 · 애 · 외’의 音價變異論, 「한글」 通卷 106 號, pp. 25~35.  
\* 「國語學論文選 I」(1974), 駱山書院, pp. 11~23 에 再錄.
1954. 3. 脣音攷—특히 脣輕音 ‘ᠩ’를 中心으로 하여—, 「서울大 論文  
集」第一輯, pp. 40~76.  
\* 「音韻論研究」(1955), pp. 165~252 에 再錄.
7. 十五世紀의 母音體系와 二重母音의 Kontraktion 的 發達에 對  
하여, 「東方學志」第一輯, pp. 331~432.  
\* 「音韻論研究」(1955), pp. 321~464 에 再錄.
9. 音聲象徵論—語感의 研究—, 「文理大學報」第 2 卷 第 2 號,  
pp. 12~20.
1955. 6. 新羅時代의 表記法體系에 關한 試論, 「서울大 論文集」第二輯,  
pp. 62~166.  
\* 國語學研究選書 1(1978)로 再刊.
6. 同音省略과 相關束問題(許雄님께 答함), 「국어 국문학」 제 13 칡,

- pp. 1~9.
1955. 11. 李朝初期의 l, r 표記問題, 「白樂濬博士 還甲紀念國學論叢」, pp. 509~48.
1956. 4. 「△」音攷, 「서울大 論文集」第三輯, pp. 51~235.  
 \* 國語學論攷(1960), pp. 1~175에 再錄.
6. Ablaut 研究, 「한글」通卷 第109號, pp. 11~24.
- 7~12. Accent 論, 「한글」通卷 第112號(pp. 3~11), 第113號(pp. 22~8), 第115號(pp. 30~6).
10. 「伊伐渙·舒發翰」音韻考—語頭子音의 한 傾向 提示一, 「李丙燾博士華甲紀念論叢」, pp. 177~203.  
 \* 國語學論叢(1966), pp. 65~77에 修正·補充하여 收錄  
 (副題가 “語頭母音形과 語頭子音形의 對立을 中心으로 하여”로  
 바뀜).  
 \* 國語學研究(1972), pp. 65~77에 國語學論叢(1966)의 것  
 o] 再錄.
1958. 12. 音聲象徵再論, 「文理大學報」第七卷 第一號(通卷 第十二號), pp. 9~15.
1959. 12. 「・」音攷 再論, 「학술원논문집」제 1집, pp. 41~154.
12. 現代 서울말의 Accent 의 考察—特히 Condition Phonétique à Accent 의 關係를 主로 하여—, 「서울大 論文集」第九輯, pp. 105~54.  
 \* 國語學論攷(1960), pp. 177~227에 再錄.
1960. 2. 15 세기의 “어”音價에 대하여, 「한글」通卷 제126호, pp. 19~28.
12. 中期語의 異化作用의 考察—特히  $rVr > rV$ 의 公式的 抽出을  
 中心으로 하여—, 「學術院論文集」第二輯, pp. 1~27.  
 \* 「國語學論叢」(1966), pp. 3~21에 再錄.  
 \* 「國語學研究」(1972), pp. 3~21에 再錄.
1964. 6. 十五世紀의 活用에서의 聲調의 考察, 「亞細亞研究」第 7 卷 第  
 2 號(通卷 第14號), pp. 49~92.  
 \* 「國語學論叢」(1966), pp. 22~54에 再錄.

\* 「國語學研究」(1972), pp. 22~54 에 再錄.

1967. 12. 聲調體系의 崩壞過程의 考察—主로 成宗時代에서 16 世紀까지  
의 文獻의 聲調變遷을 中心으로 하여—, 「震檀學報」第三十一  
號, pp. 65~87.
1971. 10. 17 世紀國語의 音韻史的 考察, 「東洋學」第一輯, pp. 49~85.
1977. 12. /·/ 音의 消失期 推定에 對하여, 「學術院論文集」(人文·社會科  
學篇) 第十六輯, pp. 79~136.
1978. 6. 國語音聲象徵論에 對하여—특히 中世語 母音의 音色順位의 再  
構와 對立의 體系를 主로 하여—, 「언어」 제 3 권 제 1 호, pp.  
1~18.
12. 東國新續三綱行實圖의 音韻史的 考察, 「學術院論文集」(人文·  
社會科學篇) 第十七輯, pp. 37~77.

### 3. 文 法

1933. 2. 語幹과 語根에 對하여, 「朝鮮語文學會報」第六號, pp. 37~39.
1950. 2. 文體의 時代의 考察, 「文藝」 2 권 2 호, 文藝社, pp. 158~166.  
\* 大學國語(1966), 韓國語文學會編, pp. 31~40 에 再錄.  
\* 山길을 걷노라면(1971), pp. 218~228 에 再錄.
1953. 2. 格의 獨立品詞 是非, 「國語國文學」 4, pp. 1~3 에 再錄.  
4. 史讀의 ‘段, 矣’ 放—處格의 比較試圖—, 「歷史學報」第四輯,  
pp. 71~83.  
\* 音韻論研究(1955), pp. 253~319 에 “所有格과 處格의 比  
較 試圖—史讀의 研究에서—”로 修正 再錄.
1954. 11. 古代語의 形態論의 研究試圖—史讀의 “良”字를 中心으로 하  
여—, 「崔鉉培先生 還甲紀念論文集」, pp. 223~276.
1955. 10. 接尾辭 -b(p)- 系의 研究—上古語의 再構를 為한 形態論의 試  
放—, 「震檀學報」第十七號, pp. 31~102.
1956. 10. 接尾辭 ‘-k(ŋ), -ŋ’에 對하여—특히 古代土耳其語와의 比較에  
서—, 「서울大 論文集」第 4 輯, pp. 79~200.  
\* 國語造語論放(1961), pp. 11~178 에 修正 再錄.

1956. 12. taBi, tahi 考—所謂 指定詞 “이다”論의 序說—, 「국어국文學」 제15집, pp. 1~23.  
 \* 國語造語論攷(1961), pp. 179~210에 再錄.
1957. 2. 國語造語論試攷—特히 語幹形成에서의 한 接尾辭의 體系樹立에 對하여—, 「震擅學報」第十八號, pp. 47~86.
12. 語幹雙形說의 提起, 「서울大 論文集」第六輯, pp. 81~106.  
 \* 國語造語論攷(1961), pp. 211~262에 再錄.
1958. 6. 主格 “가”的 發達과 그 解釋, 「國語國文學」第19號, pp. 53~57.
1959. 5. 語幹形成과 活用語尾에서의 「-(으/우)-」의 介在에 對하여, 「서울大 論文集」第八輯, pp. 1~70.  
 \* 이중에서 “Ⅱ. 名詞形 形成에서의 「-(으/우)-」의 介在에 對하여”가 “Deverbal Substantive 의 形成에서의 接尾辭 -m 系의 考察”이란 제목으로 國語學論攷(1960), pp. 261~275에 再錄.
1960. 10. Volitive form 으로서의 Prefinal ending 「-(으/우)-」의 介在에 對하여, 「震擅學報」第三十一號, pp. 107~178.  
 \* 國語學論叢(1966), pp. 130~183에 再錄.  
 \* 國語學研究(1972), pp. 212~265에 再錄.
1961. 10. 「샀다」考, 「震擅學報」第二十二號, pp. 75~102.  
 \* 國語學論叢(1966), pp. 78~97에 修正 再錄.  
 \* 國語學研究(1972), pp. 78~97에 修正 再錄.
1962. 11. 謙讓法研究, 「亞細亞研究」第5卷 第2號, pp. 133~184.  
 \* 國語學論叢(1966), pp. 236~278에 再錄.  
 \* 國語學研究(1972), pp. 318~360에 再錄.
1964. 2. 中世國語의 MOOD論—許雄氏의 所論에 答함—, 「어문학」11, pp. 1~49.  
 \* 國語學論叢(1966), pp. 184~222에 再錄.  
 \* 國語學研究(1972), pp. 266~304에 再錄.
8. 「-(으/우)-」論攷—主로 許雄氏의 基本態度의 一大變貌에 對하여, 「國語國文學」第27號, pp. 223~235.

- \* 國語學論叢(1966), pp. 223~235에 再錄.
- \* 國語學研究(1972), pp. 305~317에 再錄.
1964. 12. 敬語法研究, 「震擅學報」第二十五·六·七合併號, pp. 309~366.  
\* 國語學論叢(1966), pp. 279~325에 修正 再錄.  
\* 國語學研究(1972), pp. 361~407에 修正 再錄.
1965. 12. 副詞形 語幹形成의 한 考察, 「東岳語文論集」第三輯, pp. 1~12.
1966. 6. 助詞設定의 再檢討—特히 postposition, particle 과 格과의 混合設定에의 疑義를 中心으로 하여—, 「東洋文化」第五輯, pp. 1~20.
10. 15世紀 國語에서의 「-는」系 助詞의 機能에 對하여, 「서울大論文集」第12輯, pp. 1~24.
11. 十五世紀文獻의 文體論의 考察—月印釋譜와 法華經諺解의 比較에서—, 「가람 李秉岐博士 頌壽論文集」, pp. 273~287.
1969. 3. 語尾「-파티여」類 注釋考, 「金載元博士 回甲紀念論叢」, pp. 703~717.  
4. 主格重出의 文章構造에 對하여, 「어문학」20, pp. 1~16.
1972. 12. 17世紀 初期國語의 形態論의 考察, 「東洋學」第二輯, pp. 1~39.
1975. 4. 中世國語의 「것」의 研究, 「震擅學報」第三十九號, pp. 105~138.
1976. 4. 15世紀 國語의 冠形詞形 /-논/系 語尾에 對하여, 「震擅學報」第四十一號, pp. 117~141.  
12. 十五世紀 國語의 雙形語「잇다」「시다」의 發達에 對하여, 「國語學」第4輯, pp. 1~23.
1980. 10. 15世紀 國語의 復數性賦與의 「-들」에 對하여, 「蘭汀 南廣祐博士 華甲紀念論叢」, pp. 1~24.  
12. 中世國語의 特異處格「-의」, 「-의」에 對하여, 「學術院論文集」(人文·社會科學篇) 第十九輯, pp. 101~136.
1983. 12. 國語의 人代名詞와 身分性支配에 對하여, 「學術院論文集」(人文·社會科學篇) 第二十二輯, pp. 29~64.

1985. 9. 「웃고순」考, 「語文研究」 제13권 제2·3호(一石 李熙昇先生 九旬紀念特輯號), pp. 191~200.
11. 「-ණ」, 「-ණ녀」攷, 「羨烏堂 金炯基先生 八耋紀念 國語學論叢」, 創學社, pp. 25~46.

#### 4. 語彙

1935. 4. 魚名雜攷, 「震檀學報」第二卷, pp. 134~149.
1940. 6. '時間' 語彙에 對하여(一), 「한글」 8卷 4號, pp. 1~3.
7. '時間' 語彙에 對하여(二), 「한글」 8卷 5號, pp. 4~7.
1946. 11. 言語研究에서 본 人名攷, 「한글」 제11권 5호, pp. 2~11.
1955. 7. 韓日兩語의 語彙比較 試考—糞尿語를 中心으로 하여—, 「學術院會報」第一輯, pp. 1~19.
- \* 國語學論叢(1966), pp. 55~64에 再錄.
- \* 國語學研究(1972), pp. 55~64에 再錄.
1956. 6. 國語의 意味變化 試考—意味論 研究의 한 提言—, 「自由文學」創刊號, pp. 236~242.
1959. 7. '흐붓사' 攷—特祠 語辭의 雙形·三重形의 竝行的 發達例로서의 考察—, 「어문학」4, pp. 1~16.
- \* 國語造語論攷(1961. 1), pp. 263~379에 再錄.
1960. 12. 國語에의 意味論의 反省, 「藝術院報」第五號, pp. 51~60.
1962. 11. 國語의 Polysemy에 對하여, 「文理大學報」第九卷 第一號, pp. 15~21.
1966. 11. 宗族의 系統的 序列에 對하여, 「聖心語文論集」第1輯, pp. 2~4.
12. 詩歌에 나타난 植物名의 語彙論의 研究, 「震檀學報」第二十九·三十 合併號, pp. 313~322.
1967. 5. "語彙史", 韓國語發達史 下, 「韓國文化史大系 V」, 高大民族文化研究所, pp. 263~321.
1968. 2. 中世國語의 家族呼稱에 對하여, 「東洋文化」第6·7輯, pp. 229~246.

4. 「공번되다」의 주석(註釋), 「경향잡지」 제60권 제 4 호, pp. 21~25.
1971. 5. 國語의 Synonymy 의 研究, 「同大語文」第一輯, pp. 5~10.
10. 百濟語의 研究와 資料面의 問題點—特히 地名의 考察을 中心 으로 하여—, 「百濟研究」第二輯, pp. 157~166.
1972. 11. 「東國新續三綱行實」에 對한 語彙論의 考察, 「國語國文學」 第 55-57號(合併號), pp. 403~415.
1972. 12. 國語에 反映된 中國文化의 語彙論의 考察, 「文理大敎養講座」 第二輯, pp. 19~36.
1975. 2. 意味論에서 본 國語의 特徵, 「文理學報」第三輯, 漢陽大, pp. 9~22.
6. 「를」의 多義放, 「東洋學」第五輯, pp. 111~123.
1979. 9. 济州島 柑橘放, 「學術院論文集」(人文·社會科學篇) 第十八輯, pp. 35~67.  
\* 韓國의 傳統的 自然觀(1985), 서울大學校出版部, pp. 107~144에 再錄.
1980. 8. 鷹子名에 關한 語彙의 考察—特히 實錄 其外文獻에서의 開拓 을 考하고, 「精神文化」通卷 7號, pp. 7~22.  
\* 韓國의 傳統的 自然觀(1985), 서울大學校出版部, pp. 251~279에 再錄.
1984. 8. 李朝初期 魚類에 關한 語彙語的 考察, 「學術院論文集」(人文·社會科學篇) 第二十三輯, pp. 63~106.  
\* 韓國의 傳統的 自然觀(1985), 서울大學校出版部, pp. 281~384에 再錄.
1986. 10. 「말」과 「말쌈」의 意味識別에 對하여 —「나랏말쌈이……」의 解釋을 머금고—, 「東泉 趙健相先生 古稀紀念論叢」, pp. 221~238.

### 5. 方言·隱語

1950. 6. 德積群島의 方言研究, 「新天地」 5, 6.  
 \* 李基文外編(1977), 國語學論文選[6], 方言研究, 民衆書館, pp. 85~97에 再錄.
1957. 4. 隱語考—雪岳山 山叢採取人의 隱語言 中心으로 하여, 「一石李熙昇先生 頌壽紀念論叢」, pp. 467~492.
12. 濟州島方言의 形態論的研究, 「東方學志」第三輯, pp. 39~193.  
 \* 國語學論攷(1960), pp. 277~392에 再錄.
- \* 李基文外編(1977), 國語學論文選[6], 方言研究, 民衆書館, pp. 126~161에 I ~ III章 再錄.  
 \* 國語學研究選書 5(1978)(塔出版社)로 再刊.
1967. 5. 韓國方言史, 「韓國文化史大系 V」, 高大民族文化研究所, pp. 323~411.
1980. 9. 衰滅段階에 들어선 雪岳山 심메마니 隱語에 對하여, 「方言」 4, 韓國精神文化研究院 語文學研究室, pp. 1~21.

### 6. 文 獻

1965. 7. 李朝初期之韻書刊行, 「李濟先生 七十歲論文集」, pp. 65~73.
1968. 12. 〈古書解題〉洪武正韻譯訓, 「書香의 苑」 제 6 권.
1970. 9. 李朝初期 歷代王室의 出版政策의 考察, 「한글」 146, pp. 91~106.
1971. 10. 籤字所·冊房·正音廳의 相互關係에 對하여, 「象隱 趙容郁博士 頌壽紀念論叢」, pp. 159~170.
1972. 12. 大學諺解의 栗谷本과 官本과의 比較研究, 「東喬 閔泰植博士 古稀紀念 儒教學論叢」, pp. 311~343.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 356~403에 再錄.
1973. 10. 小學諺解의 戊寅本과 校正廳本의 比較研究, 「震檀學報」 第三十六號, pp. 77~97.

- \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 327~355에 再錄.
1974. 9. 〈解題〉論語譯解·大學譯解·中庸譯解, 漢陽大學校 國學研究院, 大提閣.
1975. 12. 譚解의 古典的 價值, 「민족문화」 1집, 민족문화추진회, pp. 42~59.
1976. 6. 仁粹大妃의 譚解事業과 그 考察의 態度論—特히 時代의 背景과 人物들의 相互關係를 中心으로 하여—, 「韓國語文論叢: 又村 姜馥樹博士 回甲紀念論文集」, pp. 195~210.
- \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 258~281에 再錄.
1978. 12. 譚解事業의 時代의 傾向에 對하여, 「민족문화」 4집, 민족문화추진회, pp. 5~29.
1980. 12. 既刊事業의 誤記과 混線에 대하여(上)—特히 「童蒙先習」의 編者是非를 中心으로 하여—, 「韓國民族大百科事典」, 精神文化研究院 事典編纂部.
1986. 12. 信眉의 譯經事業에 關한 研究, 「學術院論文集」(人文·社會科學篇) 第二十五輯, pp. 1~42.

## 7. 國語學史

1953. 9. 카스테트博士와 그의 業績, 「思想界」九月號, pp. 114~142.
- \* 音韻論研究(1955), pp. 519~572에 再錄.
- \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 420~456에 再錄.
1955. 3. 國語學史의 時代性 論攷—訓民正音 問題를 主로 하여—, 「學叢」第 1 號, pp. 39~54.
1956. 5~12. 國語學史, 「思想界」第 4 卷 第 5~12 號(7回).
1958. 12. 世宗의 言語政策에 關한 研究—特히 韻書編纂과 訓民正音制定과의 關係를 中心으로 하여—, 「亞細亞研究」第一卷 第二號, pp. 29~83.
- \* 國語造語論攷(1961), pp. 381~462에 再錄.
1959. 8. 洪武正韻譯訓의 研究, 「震檀學報」第二十號, pp. 115~179.

1964. 4. 黃胤錫의 「理蔽新編」의 考察—特히 語學研究를 中心으로 하여—, 「陶南 趙潤濟博士 回甲紀念論文集」, pp. 41~61.  
 \* 國語學論叢(1966), pp. 117~126에 再錄.  
 \* 國語學研究(1972), pp. 167~176에 再錄.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 240~257에 再錄.
1964. 9. 崔萬理研究, 「李相伯博士 回甲紀念論叢」, pp. 43~73.  
 \* 國語學論叢(1966), pp. 101~116에 再錄.  
 \* 國語學研究(1972), pp. 151~166에 再錄.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 211~239에 再錄.
1965. 7. 天主教 神父의 韓國語研究에 對하여, 「卿恪 李相殷博士 華甲紀念 東洋學論叢」, pp. 205~217.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 404~419에 再錄.
10. 崔世珍研究—特히 李朝에서의 「中人」出身學者の 位置의 考察—, 「亞細亞學報」第一輯, pp. 21~41.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 191~210에 再錄.
1966. 12. 世宗大王의 個性의 考察—特히 그 嗜好·體質·思想·私生活等의 考察을 中心으로 하여—, 「大東文化研究」第三輯, pp. 19~82.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 82~167에 再錄.
1967. 2. 世宗大王研究에의 疑義提起—特히 資料의 檢討와 恣意的 推想의 危險性을 中心으로 하여—, 「全碩在神父 銀慶祝紀念論叢」, 曉星女大, pp. 19~31.
1969. 12. 〈皇極經世書〉의 李朝後期 言語研究에의 影響, 「長檀學報」第三十三號, pp. 105~130.  
 \* 國語學研究(1972), pp. 177~195에 再錄.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 282~313에 再錄.
1971. 6. 世宗의 經學思想에 對하여, 「淵波 車相轅博士 頌壽論文集」, pp. 13~28.  
 \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 39~52에 再錄.
11. 洪武正韻의 認識의 時代의 變貌, 「金亨奎博士 頌壽紀念論叢」, pp. 551~565.

- \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 314~326에 再錄.
- 1974. 7. 世宗의 言語政策事業과 그 隱密主義的 態度에 대하여, 「霞城 李瑄根博士 古稀紀念論文集」(韓國學論叢), pp. 413~437.
- \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 3~38에 再錄.
- 1975. 5. 世宗의 轉地療養에 대하여, 一特히 溫泉과 冷泉의 療養을 中心으로 하여, 「語文研究」第3卷 第1·2號, pp. 11~34.
- \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 53~81에 再錄.
- 1980. 12. 9. 世宗朝의 時代의 背景, 韓國精神文化研究院 세미나 “世宗朝文化의 再認識”의 基調講演內容.
- \* 世宗大王의 學問과 思想(1981), pp. 168~188.

### 8. 其 他

- 1929. 許蘭雪軒の 研究, 「清涼」, 京城帝大豫科.
- 1962. 6. 壬辰倭亂과 民間人被害에 對하여—『東國新續三綱行實』의 被害報告書의 資料를 中心으로 하여, 「歷史學報」第十七·十八合輯, 歷史學會, pp. 221~243.
- 1971. 3. 燕山君의 詩想의 考察, 「東方學志」第十二輯, pp. 247~265.
- \* 國語學研究(1972), pp. 196~207에 再錄.
- 1973. 3. 星湖의 北漢山 紀行文의 考察, 「清溪 金思燁博士 頌壽紀念論叢」, pp. 17~33.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 223~253에 再錄.
- 1975. 2. 北漢山의 地誌的 考察, 「論文集」第1輯, 仁荷大 人文科學研究所, pp. 9~36.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 159~222에 再錄.
- 1976. 6. 扉村 黃喜先生의 「退歸交河」事件에 對하여, 「神父 全碩在博士 還暦紀念論文集」, pp. 451~483.
- 1980. 12. 李朝蠶室考, 「精神文化」通卷 8 號, pp. 8~17.
- 1981. 4. 自然保護史의 考察—特히 松政과 柑橘問題를 主로 하여, 「생물교육」9권 1호, 한국생물교육학회, pp. 4~10.
- 9. 韓國의 茶, 韓國精神文化研究院 一般研鑽資料.

- \* 韓國의 傳統的 自然觀(1985), pp. 239~248 에 再錄.
1981. 12. 李朝松政考, 「學術院論文集」(人文·社會科學篇) 第十二輯, pp. 225~276.  
\* 韓國의 傳統的 自然觀(1985), pp. 145~203 에 再錄.
1982. 10. 韓國茶의 文獻學的研究, 「松汀 李庭林先生 古稀記念論叢」, pp. 39~64.  
\* 韓國의 傳統的 自然觀(1985), pp. 205~238 에 再錄.
12. 世宗斗 風水地理說에 관한 研究, 「學術院論文集」(人文·社會科學篇) 第二十一輯, pp. 233~284.
1983. 12. 豊室의 研究—韓國文獻研究의 現況과 展望—「亞細亞文化社 創立十週年紀念論文集」, pp. 37~66.  
\* 韓國의 傳統的 自然觀(1985), pp. 385~417 에 再錄.

## III. 書評·論戰

1954. 10. 鄭暉海氏 所論을 驁합, 「思想界」十月號.
1955. 1. 虛勢外 逃避(鄭暉海氏에게 答함), 「思想界」一月號.
1957. 7. 「古代土耳其語文法」(가바인著) 書評, 「思想界」七月號.
8. 「通古斯語」(엔정著) 書評, 「思想界」八月號.
9. 「라무트語 文法」(엔정著) 書評, 「思想界」九月號.
11. 「칸카蒙古文法」外 一篇(포끼著) 書評, 「思想界」十一月號.
1958. 4. 「文章의 論理的 構造에 關한 論考」(세쉬에著) 書評, 「思想界」四月號.
6. 「一石 李熙昇先生 頌壽紀念論叢(下)」書評, 「國語國文學」第19號.
8. 「音韻論總論」(그라몽著) 書評, 「思想界」八月號.
11. 梁柱東氏의 挑戰에 答한다, 「思想界」十一月號.
11. 批判의 態度, 「思潮」第一卷 第六號.
1960. 5~9. 梁柱東氏에게 答한다, 「思想界」五·八·九月號.
1962. ~2. 異見의 辯: 劉昌淳氏의 「中世國語文法에 대한 異見」을 읽고 서, 「思想界」二月號.
4. 再異見의 辯: 다시 劉昌淳氏의 「中世國語文法에 對한 再異見」을 읽고, 「思想界」四月號.
6. “古文獻에 나타난 稀貴語考察”을 읽고, 南廣祐(1962), 國語學論文集, 一文社.
1976. 6. 「이두사전」(張志映·張世慤共著) 書評, 신중·완벽한 資料의 蔽集, 「新東亞」六月號.
1982. 3. 「嶺東 嶺西의 言語分化」(李翊燮著) 書評, 江原道의 言語地理學, 「方言」6.

## IV. 序文·祝辭·刊行辭·監修辭

1955. 9. 「言語學原論」(A. 도자著, 李基文譯) 序, 民衆書館.
1958. 10. 「韓國古代小說史」(朴晟義著) 序, 日新社.
1959. 5. 「國文學概說」(梁濂奎著) 序, 精研社.
6. 「國語學史」(俞昌均著) 序, 英文社.
1960. 5. 「文體論」(李仁模著) 序文, 東華文化社.
7. 「國學研究總覽」序, 乙酉文化社.
1961. 6. 「韓國民謠集」(任東權編) 序, 東國文化社.
1962. 1. 「濟州島方言研究 第一輯 資料篇」(玄平孝著) 序, 精研社.
3. 「大學國文選」(서울대 教養科目教材出版委員會) 序, 乙酉文化社.
1968. 5. 「杜詩諺解論釋」(全在昊著) 序, 宣明文化社.
1972. 11. 「標準 韓國語」(朴成媛著) 序文, 高麗書林,
1974. 9. 「大東地誌」影印 刊行辭, 漢陽大 國學研究院.
9. 「訓民正音韻解」, 「諺文志」, 「大學諺解」, 「雞林類事」, 「中庸諺解」影印 刊行辭, 漢陽大 國學研究院, 大提閣.
12. 「漢陽語文」發刊辭, 「漢陽語文」第 1 輯, 漢陽大 國語國文學科.
1978. 3. 「韓國方言辭典」監修辭, 玄文社.
1982. 3. 「羅孫 金東旭先生 回甲紀念文集」賀序, 悅話堂.
1985. 5. 「문사늘 全碩在總長 古稀紀念論叢」祝辭, 魁星女大總同窓會.

## V. 雜記

## 1. 論說

1950. 6. 芬蘭「ampsbet」博士의 朝鮮語學, 「주간서울」, p. 90.
1953. 國語의 語感試考—母音을 中心으로—, 「文藝」 pp. 37~43.
1953. 4. 故 方鍾鉉氏의 人間과 學問, 「新天地」第8卷 第1號, pp. 152~8.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 332~343에 再錄.
11. 國語教育問題, 「新天地」第8卷 第6號, pp. 69~75.
12. 訓民正音研究의 新提唱—記錄裏面의 人間과 時代性—, 「自由世界」12月號.
1954. 民族 및 文化와 文化社會, 「大學國語」, 서울大學校.  
 \* 金敏洙外 共編(1984), 「國語와 民族文化」, 集文堂, pp. 46~50에 再錄.
1954. 10. 國語教育의 盲點, 「教育文化」10月號, pp. 17~23.
1956. 4. 學問의 方法論, 「思想界」4月號.
1957. 2. 文法術語의 再檢討, 「新太陽」2月號, pp. 189~195.
1958. 8. 國語學의 方向轉換을 提議한다, 「思潮」1卷 3號, pp. 16~21.
10. 한글 자형(字形)의 연구, 「地方行政」10月號, pp. 40~49.
1962. 1. 漢字廢止 法令化에 對하여, 「思想界」1月號.  
 3. 大學에 있어서의 國語 및 文學教育, 「現代文學」3月號.
1965. 2. 「이름씨」가 아니라 「名詞」야, 「世代」2月號.
1966. 3. 도오꼬오 呼稱論—對日一邊倒의 언어정책—, 「思想界」3月號.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 349~359에 再錄.  
 \* 山길을 걸노라면(1971), pp. 209~217에 再錄.  
 \* 大學國語(1984), 서울大出版部, pp. 122~128에 “外來語政策과 主體性”으로 改題하여 再錄.  
 \* 金敏洙外 共編(1984), 「國語와 民族文化」, 集文堂, pp.

359~365 예 再錄.

1968. 1. 言語와 社會, 인문계 고등학교 국어 Ⅲ, 문교부, pp. 96~103.
1973. 11~74. 3. 北韓山 寺刹考(1)~(4), 「法施」74~78 호.
1976. 5~6. 仁粹大妃의 生涯와 印經事業 ①②, 「法施」.
1977. 12~78. 仁粹大妃의 譯經事業 ①②, 「法施」.
1979. 10. 한글제정의 배경과 해석, 「首都教育」10月號, pp. 2~7.
1981. 2. 韓國學의 問題點 提起, 「文藝振興」第8卷 第2號. 2~5. 禪家龜鑑에 대하여 (一)(二), 「女性佛教」.
6. 國語教育와 言語政策, 「교육자료」第25卷 第6號(通卷 293號), pp. 14~15.

## 2. 隨筆·記事

1933. 2. 金兄을 追憶하며, 「朝鮮語文學會報」第六號(編者註: 金兄은 金在喆임).
1947. 1. 4. 國語教育에 대하여, 「朝鮮日報」.
3. 25~ 方言學의 樹立(上)(中)(下), 「朝鮮日報」.
1948. 5. 24. 學園의 守護, 「京城大學 豫科新聞」.
9. 5~6. 鬱陵島方言(上)(下), 「朝鮮日報」.
11. 2. 朝鮮語學의 危期, 「京鄉新聞」.
11. 27. 栽花斷想, 「서울新聞」.  
\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 295~297 예 再錄.
12. 18. 學問과 早老病, 「서울신문」.
1948. 12. 17~19. 南海懷鄉의 悲歌, 「國際新聞」.  
\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 360~367 예 再錄.
1949. 4. 25. 國語術語制定에 物議, 「京鄉新聞」.
5. 27~29. 新造語의 強要(上)(中)(下), 「京鄉新聞」.
10. 27~ 國語史研究와 比較言語學의 可能性(上)(下), 「國都新聞」.
11. 畏酒記, 「文藝」.  
\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 298~301 예 再錄.

12. 5. 〈文化人互評記〉方鍾鉉論, 「주간 서울」.
1950. 1. 30. 朝鮮語學의 科學性, 「檀大學報」.
2. 都下各大學巡禮記一文理科大學篇一, 「新天地」.
  3. 都下各大學巡禮記一國學大學篇一, 「新天地」.
1951. 9. 土氣昂揚의 方法試考, 「國防」.
12. 22. 〈日本學界의 企圖〉“朝鮮學會”創立을 들고서, 「大田 聯大學報」.
1952. 2. 11. 古代語의 母音體系一七母音制의 主張一, 「大學新聞」.
2. 18. 求書・勸書, 「大學新聞」.
4. 22. 外來化 是非論 ①: 잔나비演劇, 「서울신문」.
4. 23. 外來化 是非論 ②: 鍍金洋行, 「서울신문」.
4. 24. 外來化 是非論 ③: 外國語問題, 「서울신문」.
5. 文官歎, 「新天地」.
- \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 93~95에 再錄.
5. 11. 設計圖, 「大學新聞」.
10. 20. 日本學者의 朝鮮語研究一河野六郎氏의 「古文獻의 聲點」을 읽고一, 「大學新聞」.
11. 20. 音韻法則의 考察, 「京大新聞」
1953. 3. 7~10. 教科書 新字型 問題(上)(下)一文化政策의 獨斷性一, 「京鄉新聞」.
6. 1. 國語審議委員會에 寄託, 「大學新聞」.
  8. 23. 大研究事業 計劃하라一創設된 學術院에의 提言一, 「서울 신문」.
  9. 獨島問題의 今後의 對備, 「希望」.
  10. 休戰後의 軍教育을 為하여, 「國防」.
  11. 大學教授는 거룩한 牧者, 「新太陽」.
  11. 17. 故方鍾鉉의 「무로龜」; 十八日追悼會를 열면서, 「서울신문」.
1954. 1. 將兵 一般教育論, 「教育通報」.
1. 17. 國語의 品位向上; 文體를 開拓하자, 「서울신문」.
  2. 9. 黑山島脫出記, 「大學新聞」.
- \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 195~198, 山길을 걷노라

면 (1971), pp. 367~372 에 再錄.

1954. 4. 21~24. 國語審議委員會에 提出된 緜字法理論의 總批判(1)(2)  
 (3), 「第一新報」.
6. 3. 文壇에의 提議；秩序와 모랄을 세우라, 스스로의 地位와  
 權威 為해, 「서울신문」.
  8. 軍門漫錄, 「現代國文選」, 陸軍士官學校印刷所.
  10. 軍門漫錄, 「離星」, 陸軍士官學校.
  10. 바다의 鄕愁, 「現代公論」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 187~191, 山길을 걷노라  
 면 (1971), pp. 373~376 에 再錄.
  11. 健全한 發展을 向하여, 「思想界」.
  12. 30. 比較言語學의 現況一國語學의 脫攻를 바라며一, 「月刊國  
 學」.
1955. 1. 젊은 世代를 信賴한다, 「女苑」.
2. 平壤의 回想, 「思想界」.
  3. 書齋生活, 「現代文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 30~34 에 再錄.
  4. 10. 國語學의 方向轉換；同學의 活動을 祝賀하여, 「서울신문」.
  4. 11. 新羅時代의 表記法體系, 「大學新聞」.
  4. 12. 韓語族의 日本侵入一上古時代의 言語鬪爭一, 「朝鮮日報」.
  5. 波市, 「自由世界」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 199~202 에 再錄.
  6. 學究의 길을 더듬어서, 「思想界」.
  8. 4. 十二東波島, 「朝鮮日報」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 192~194, 山길을 걷노라  
 면 (1971), pp. 359~361 에 再錄.
  9. 19. 博士學位論文要旨一母音에 關한 音韻的研究, 「大學新聞」.
  9. 22. 五歲庵斗 不寢番, 「학도주보」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 234~238, 山길을 걷노라  
 면 (1971), pp. 359~361 에 再錄.
  10. 5. 故 石宙明氏의 濟州島研究, 「[나]學者」의 五周年忌를 맞

이하여, 「韓國日報」.

\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 344~346에 再錄.

1955. 10. 8. 한글날을 맞아하여 ; 한글의 걸어온 자취, 「朝鮮日報」.
10. 9. 訓民正音解例의 態度, 「韓國日報」.
11. 19. 隱語類의 新發見—雪岳山 山蔘採取人의 변말, 「大學新聞」.
11. 26. ~27. 中央大學校의 開校三十周年 紀念論文集을 읽고(上)  
(下), 「韓國日報」.
12. 28. 1955年의 總收穫〈國語學의 總決算〉, 「韓國日報」.
1956. 1. 나의 讀書觀, 「思想界」.
1. 女大生과 學問, 「女苑」.
2. 4. 나와 言語, 「東亞日報」.
2. 4. ~5. 言語政策의 重大課題—音韻變異와 音價의 動搖(上)(下),  
「東亞日報」.
2. 6. 批判精神의 昂揚, 「大學新聞」.
2. 15~17. 濟州道 方言의 再認識(上)(中)(下), 「韓國日報」.
4. 1. 領洗記, 「가톨릭時報」.
5. 研究室의 生活哲學, 「新太陽」.
8. 手榴彈, 「서울新聞」.
- \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 96~98에 再錄.
9. 5~7. 鬱陵島方面, 「朝鮮日報」.
9. 13~14. 漢字制限問題; 輿論에 一致하는 政策轉換을 바람, 「서  
울신문」.
11. 14. 전강, 「서울신문」.
12. 7~8. 두드러진 前進歟다 ; 研究室 떠나는 學者·出版의 不況,  
「京鄉新聞」.
12. 19. 올해 못한 일—設計와 먼 距離, 「朝鮮日報」.
1957. 2. 8. 閹病記, 「朝鮮日報」.
- \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 249~253에 再錄.
3. 學問의 길로 가는 새 學士께, 「속대월보」.
4. 是非覈, 「女苑」.
- \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 87~90에 再錄.

1957. 4. 冊, 「思想界」.
4. 17. 「心岳」의 辭, 「東亞日報」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), p. 292에 再錄.
4. 26~27. 言語年代學의 課題, 「東亞日報」.
5. 大學社會를 친다, 「思想界」.
5. 15. 世宗大王의 學問의 業績, 「京鄉新聞」.
7. 多辯, 「思想界」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 78~82에 再錄.
7. 15. 山岳의 鄉愁, 「大學新聞」.
7. 23. 個性있는 研究誌; 「國語研究誌」創刊에 부쳐서, 「朝鮮日報」.
8. 教育者論, 「새교육」.
10. 9. 世宗大王과 한글創制—時代思潮와의 對決, 「朝鮮日報」.
10. 9. 한글은 언어과학의 극치; 잘 키우고 살려 나가자, 「서울신문」.
10. 16. 學問과 讀書, 「교육신보」.
10. 30. 나의 嗜好—登山, 「京鄉新聞」.
11. 山岳과 커피, 「自由文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 239~242에 再錄.
11. 22. 漢字制限論; 使用頻度數의 策定을 보고, 「서울신문」.
12. 1. 國語學界의 苦言, 「檀大學報」.
12. 20~21. 〈丁酉文化界總評〉氣魄의 缺如·環境의 不利—特히 人文 社會科學을 中心으로(上)(下), 「京鄉新聞」.
12. 28. 新舊交替, 「京鄉新聞」.
1958. 1. 大學教育의 回顧와 展望, 「새교육」.
4. 어머님 回想, 「女苑」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 319~326, 山길을 걸노라면(1971), pp. 111~117에 再錄.
5. 大學은 어디로, 「思想界」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 49~52, 山길을 걸노라면(1971), pp. 137~139에 再錄.

1958. 5. 1. 環境整理부터 (語學者로서) ; 民族言語의 醇化方途, 「東亞日報」.
6. 大學生과 研究, 「思潮」.
6. 마라푼다, 「知性」.  
\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 70~72에 再錄.
6. 批判, 「自由文學」.
6. 30. 白翎·大青·小青·廷坪 諸島嶼 學術調查에 關하여, 「大學新聞」.
7. 11. 國文學界의 基本課題, 「서울신문」.
7. 13~16. 學問의 老人王國；大先輩威壓과 世代交替의 遲延, 「東亞日報」.
7. 22. 伏中隨感, 「朝鮮日報」.  
\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 289~291에 再錄.
8. 良書推薦, 「코메트」 제28호.
8. 아내의 이야기 (生活의 秘書이자 助手), 「女苑」.  
\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 293~294에 再錄.
8. 12~13. 刮目할 新進學者の 進出；主로 人文科學에서 보고(文化 10 年 小史—學術), 「京鄉新聞」.
9. 1. 學徒의 教養과 訓育, 「訓育」.
9. 26. 批判의 態度—「나쁘다」가 아니라 「그르다」라야 한다, 「서울신문」.
10. 나의 趣味, 「思想界」.
10. 大學의 發展과 使命, 「新太陽」.
10. 言語의 醇化, 「새교육」.
10. 6. 梁柱東氏의 挑戰, 「大學新聞」.
11. 10~11. 感激과 希望의 도가니；全國國語國文學研究發表大會를 보고, 「朝鮮日報」.
11. 30. 批判의 限界, 「신흥대학보」.
12. 國民校生의 苦役은 加重, 「自由公論」.
12. 辭明 뒤의 解明, 「新太陽」.
12. 16. 學生들의 登山, 「世界日報」.

1959. 3. 課題의 摸索斗 態度, 「新太陽」.
4. 19~21. 國語學資料檢討의 態度論; 史的 考察의 先決問題, 「東亞日報」.
4. 29. 學生斗 山岳, 「朝鮮日報」.
5. 山岳人의 野性, 「新太陽」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 225~233, 山길을 걸노라면(1971), pp. 315~321에 再錄.
6. 瓢金洋行, 「自由文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 83~86에 再錄.
6. 10. 「이니시아티브」의 辭, 「朝鮮日報」.
6. 30. 反『坐敘우르』의 佛國學派의 音韻論의 態度論, 「新興大學報」.
7. 多辯, 「思想界」.
7. 26. 녹음 속에 묻힌 내 書齋, 「東亞日報」.
8. 26~29. 濟州島學術調查記; 風風부는 속에서, 「東亞日報」.
9. 讀書의 方法論, 「새세대」.
10. 9. 訓民正音의 考察; 世宗大王의 偉業과 우리의 態度, 「東亞日報」.
10. 12. 孤壘에 남은 兵士, 「大學新聞」.
11. 18. 「東京」과 「도꾜」, 「聯合新聞」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 103~105에 再錄.
11. 23. 친할한 아동들에게, 「어린이」 제62호 제 2집.
11. 24. ×月×日, 「東亞日報」.
11. 27. 우리 할 도로 찾기, 「聯合新聞」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 112~114에 再錄.
12. 女性言語의 分析, 「女性生活」.
12. 冊과 邸宅, 「聯合新聞」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 109~111에 再錄.
12. 4. 文法統一, 「聯合新聞」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 106~108, 山길을 걸노라면(1971), pp. 199~200에 再錄.

1959. 12. 13. **쌀통會話**, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 115~117에 再錄.
12. 17. 宮合, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守再(1968), pp. 118~119에 再錄.
12. 22. 濟州島外 陸地農民, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 120~121에 再錄.
12. 28. 바다의 見聞, 「聯合新聞」.  
     \* 大學番의 把守兵(1968), pp. 122~123에 再錄.
1960. 1. 1. 三大原則, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 124~126에 再錄.
1. 8. 李朝의 女性, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 127~128에 再錄.
1. 11. 齒痛患者, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 129~130에 再錄.
1. 13. 〈韓國의 인 것의 未來(學界)〉 第三段階의 轉換期, 「聯合新聞」.
1. 17. 語彙의 開拓, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 131~132, 山길을 걷노라면(1971), pp. 197~198에 再錄.
1. 19. 著作權訴訟 第一號, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 133~134에 再錄.
1. 19~20. 宇宙世紀에 있어서의 言語學의 位置, 「부산일보」.
1. 24. 盜伐方法論, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 135~137에 再錄.
1. 26. 朴淑德, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 138~140에 再錄.
2. 1. 걸 멋과 진짜 멋, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 141~143에 再錄.
2. 7. 方言과 地方色, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 144~145, 山길을 걷노라면(1971), pp. 201~202에 再錄.

1960. 2. 11. 學者의 生命, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 146~147 에 再錄.
2. 16. 教室定員 八〇名, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 148~150 에 再錄.
2. 21. 巫堂, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 151~152 에 再錄.
2. 26. 졸업을 축하하며, 「선농단」.
3. 1. X 科學會總會, 「聯合新聞」  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 156~158 에 再錄.
3. 8. 第一一號車, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 159~161 에 再錄.
3. 10. 胃潰瘍 族屬, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 162~163 에 再錄.
3. 12. 洋綬打鈴, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 164~166, 山길을 걸노라  
       면(1971), pp. 121~122 에 再錄.
3. 27. 高官訪問客, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 170~172 에 再錄.
3. 29. 자랑의 所在, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 173~175 에 再錄.
3. 30. 觀劇의 態度, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 167~169 에 再錄.
4. 不安 속의 旅行, 「現代文學」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 205~209, 山길을 걸노라  
       면(1971), pp. 407~410 에 再錄.
4. 1. 遊學生訓練, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 176~178 에 再錄.
4. 4. 師母님 大學, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 176~178, 山길을 걸노라  
       면(1971), pp. 118~120 에 再錄.
4. 9. 한글문자의 제과제—音價의 動搖와 政策問題一, 「東亞日

報」。

1960. 4. 11. 벼슬에의 길, 「聯合新聞」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 182~184 에 再錄.
4. 20. 〈나의 奇癖, 나의 缺點〉 지나친 戰爭意識, 「朝鮮日報」.
4. 29. 學園으로의 凱旋, 「朝鮮日報」.
5. 4. 山岳의 家族, 「東亞日報」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 247~248 에 再錄.
5. 19. 民主革命과 教育者의 反省, 「부산일보」.
6. 教授生活의 斷面, 「女苑」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 40~48, 山길을 걷노라면  
       (1971), pp. 153~159 에 再錄.
6. 25. 避難行, 「朝鮮日報」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 99~100 에 再錄.
6. 30. 現段階의 學生의 位置, 「大學週報」.
7. 2. 學生의 選舉運動, 「東亞日報」.
7. 8. 學園分糾와 根本的 解決策, 「世界日報」.
7. 9. 내가 읽고 勸하는 冊, 「연합신문」.
7. 27. 새 時代를 呼吸한다, 「서울신문」.
8. 바보, 「學代文學」.
10. 言語學에서 본 한글의 優秀性, 「地方行政」.
10. 9. 第二共和國 첫 「한글날」에, 「京鄉新聞」.
12. 17. 戰後 15 年間의 世界學界(言語學) ; 눈부신 美言語學會의 業績, 「民國日報」.
12. 21. 60 年 文化界 整理(國語學), 「京鄉新聞」.
12. 29. 촛불 밑에서나마, 「民國日報」.  
     \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 310~312 에 再錄.
1961. 2. 5. 文化財와 그 保存對策, 「民國日報」.
4. 2. 나의 프랫쉬맨시절, 「民國日報」.
4. 21. 〈四·一九 一周錄〉 內紛에 犠牲된 研究, 「朝鮮日報」.
6. 19. 書評의 強要, 「大學新聞」.
6. 21. 〈提言〉 社會科學研究所 設置를, 「東亞日報」.

1961. 9. 漢拏山과 젊은이의 對決, 「思想界」.
10. 8. 世宗大王과 訓民正音(人間面과 事業推進의 苦惱), 「京鄉新聞」.
10. 19. 책과 人生, 「東亞日報」.
10. 27. 山의 거울이 그리워, 「民國日報」.
11. 필리핀의 人情, 「現代文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp.210~213, 山길을 걷노라면(1971), pp.415~418에 再錄.
11. 20. 文化人에 對한 定義—우리 나라에만 있는 말—, 「朝鮮日報」.
11. 22. 國語學의 現況, 「大學週報」.
12. 21. 〈첫 學士 資格考試〉 教授가 주는 말, 「서울신문」.
1962. 1. 民主社會의 齊家, 「女苑」.
1. 3. 〈期待되는 個人業績〉 現況克服해야 할 學界, 「朝鮮日報」.
1. 9. 國學研究의 轉機—政府와 一般社會의 協調를—, 「民國日報」.
2. 24. 〈追悼：故 朴贊甲 記者，故 金鍾漢 操縱土） 風雪과 싸운 殉職精神, 「서울신문」.
3. 10. 새로운 滿足을 느낀 映畫, 「국제영화」.
4. 無能의 象徵 아니다, 「家庭生活」.
4. 6. 大學院과 大學, 「朝鮮日報」.
4. 30. 〈愛書〉 迷信같은 妄想 속에, 「東亞日報」.
5. 16. 〈5月의 發言：革命政府에 바란다〉 研究論文集 刊行 實態 把握을, 「東亞日報」.
5. 21. 〈韓國的인 멋을 말한다〉 文學, 「大學新聞」.
1963. 6. 18~20. 〈不和音의 僑胞〉 美國을 다녀와서(上)(下), 「東亞日報」.
6. 27. 「시아틀」의 韓國料理店, 「서울신문」.
7. 美國의 韓國研究實態, 「思想界」.
7. 1. 言語政策의 獨善性, 「大學新聞」.
7. 22. 放學과 讀書, 「大學新聞」.
7. 31. 山精，山香，山友，「韓國日報」.

\* 산 좋아 산을 타니 (1978), pp. 36~38에 再錄.

1963. 8. 31. 登山, 「東亞日報」.
9. 孤寂, 「現代文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1971), pp. 214~217, 山길을 걷노라  
 면(1971), pp. 411~414에 再錄.
9. 美國管見의 斷想, 「思想界」.
9. 4. 旅行과 모랄, 「大韓日報」.
10. 28. 「韓國天主教史」의 研究, 「가톨릭시보」.
11. 故一簋의 追憶, 「一簋國語學論集」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 327~331에 再錄.
11. 6. 한글 바로 쓰기의 課題, 「大學新聞」.
11. 18. 「東京」과 「도오쿄」, 「연합신문」.
12. 4. 文法統一, 「연합신문」.
12. 9. 册과 邸宅, 「연합신문」.
12. 17. 〈文化界 '63年の 발자취〉 學界, 「朝鮮日報」.
1964. 1. 21. 學術大會場에 「千里馬」 를고온 北傀—第26次 東洋學者大會  
 에 다녀와서—, 「朝鮮日報」.
3. 印度의 印象, 「現代文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 218~222, 山길을 걷노라  
 면(1971), pp. 419~422에 再錄.
3. 8. 經文의 自國語 使用에 對하여—改譯 또는 修正의 必要性을  
 中心으로—, 「가톨릭시보」.
3. 11. 〈學問에의 指標〉 國語國文學, 「大學週報」.
3. 22. 蘇聯代表들의 動向—第二十六次 東洋學者大會에 다녀와서—  
 「陸士月報」.
5. 〈現代 女性論 노오트〉 어여빠라 알뜰하여라, 「女苑」.
7. 18. 길은 庭園樹 그늘에서, 「木浦日報」.
7. 27. 濟州問題 심포지움을 보고—特히 民俗學會의 活動에 對하  
 여—, 「大韓日報」.
8. 「日本的」과 「美國的」, 「思想界」.
9. 庭園, 「文學春秋」.

- \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 285~288에 再錄.
1964. 10. 고추먹고 땡땡, 「女苑」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 65~69에 再錄.
11. 劣等意識, 「思想界」.
1965. 4. 世宗大王, 「人物韓國史」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 417~441에 再錄.
6. 무지개를 풀던 時節, 「世代」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 15~29, 山길을 걷노라면 (1971), pp. 31~43에 再錄.
7. 浪費敘는 計劃, 「現代文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 53~56에 再錄.
11. 登山과 學問, 「新東亞」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 243~246에 再錄.
1966. 1. 「샀다」列車, 「詩文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 73~77에 再錄.
8. 中高校生을 為한 夏季登山의 指導, 「學校體育」.
12. 5. 겨울 放學은 工夫의 好機, 「大學新聞」.
1967. 1. 宦舍, 「現代文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 313~316에 再錄.
2. 1. 清白吏, 「서울신문」.
2. 27. 入學請, 「聯合新聞」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 153~155에 再錄.
6. 韶마의 山行, 「現代文學」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 259~263에 再錄.
6. 안에 사는 사람들에게, 「主婦生活」.
7. 나의 食道樂, 「新東亞」.  
 \* 大學街의 把守兵(1968), pp. 302~309, 山길을 걷노라면 (1971), pp. 79~85에 再錄.
8. 軍人과 登山, 「육군」.
8. 31. 第27次 國際東洋學者大會 參석 後記, 「東亞日報」.
9. 登山通路, 「政經研究」.

\* 大學街의 把守兵(1968), pp. 254~258에 再錄.

1967. 9. 2. Korean Studies Comes Into Own, 「The Korea Times」.
1968. 3. 山岳工夫, 「世代」.
8. 國民病의 診斷, 「經協」.
8. 23. 중학교 진학, 「민주공화보」.
10. 알맞은 沙場, 「女苑」.
10. 回甲, 「新東亞」.
11. 2. 한글專用 그 問題點(國學臨終의 序曲), 「東亞日報」.
1969. 1. 이 한권의 책을—「韓國史 現代編」李瑄根지음, 「보건세계」.
1. 胡弓型 스토브, 「現代文學」.
2. 真假풀이, 「자유공론」.
2. 한글전용문제, 「現代文學」.
3. 蠻勇의 苦言, 「가톨릭時報」.
4. Introduction to Koreanology To Help Foreign Students, 「KOREA TIMES」.
7. 山岳研究의 貧困, 「등산」.
7. 평신도 사도직 협의회란?, 「청량월보」.
8. 11. 〈避暑地에서〉 南海섬의 파노라마, 「京鄉新聞」.
10. 9. 「한글專用」에 붙이는 論壇, 「中央日報」.
12. 15. 〈우리 말 찾기〉 「장개석總統」과 「사또오首相」, 「大學新聞」.
12. 21. 「가짜 豊年」을 보내며, 「週刊朝鮮」.
1970. 1. 1. 〈내가 본 時報 바라는 時報〉 讀者소리 外面말고 先驅者 구 실 다하길, 「가톨릭時報」.
1. 11. 〈새해 인사말씀〉 한국 천주교의 복된 나라로, 「가톨릭時報」.
2. 公文書 한글 전용화, 「中央行政」.
7. 28. 파서지의 風紀, 「中央日報」.
8. 庚戌國恥, 「新東亞」.
8. 1. 知性人の 바캉스, 「東亞日報」.
8. 5. 〈원양새 獨白〉 늦게 일어나 조반상 위의 큰 대접을 열어보니, 「주간女性」.
12. 20. 크리스마스淨化, 「주간中央」.

1970. 나의 한글 맞춤법 改革案, 「中央」.
1971. 1. 17. 學者, 「가톨릭時報」.
1. 24. 교세(敎勢)의 융성(隆盛), 「가톨릭명동」.
  2. 몽골리안, 「女性東亞」.
  2. 17. 마나슬루 원정대 장도에 붙여, 「서울신문」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 153~155에 再錄.
  2. 25. 대학에 있어서의 외국어 습득의 중요성—「한글대학생」과  
나의 체험기—, 「외대 학보」.
  3. 5. 車中에 노래자랑, 「대한일보」.
  3. 20. 버스와 禁煙, 「대한일보」.
  4. 8. 女性의 웃차림, 「대한일보」.
  4. 18. 한창의 이 寫眞, 「주간中央」.
  4. 26. 民主力量을 과시하자, 「東亞日報」.
  5. 歷史小說과 造作, 「中央」.
  5. 9. 勸하는 말, 「讀書新聞」.
  6. 부탁을 거절 못해, 「女性東亞」.
  6. 13. 坡州郡의 歷史, 「坡州 鄉友會報」.
  7. 24. 放學을 뜻 짚기—푸짐한 人心 속에 古蹟답사—, 「朝鮮日報」.
  7. 27. 학·예술원 이사에 붙여, 「서울신문」.
  8. 25. 大學論연구의 必要性—大學의 自律性과 教授의 대우 改善—, 「大韓日報」.
  9. 社會淨化를 위한 方案, 「世代」.
  9. 27. 南北對話에 부쳐, 「大學新聞」.
  10. 知識人은 現實을 直視하자, 「世界」.
  10. 3. 平價切下의 整風, 「韓國日報」.
  12. 祝靈山, 「月刊中央」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 86~89에 再錄.
  12. 祝靈山, 「月刊中央」.
  12. 1. 仁壽峰의 山事故, 「朝鮮日報」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 65~66에 再錄.
  12. 8. 清白吏사상, 「朝鮮日報」.

1971. 12. 15. 休日의 結婚, 「朝鮮日報」.
12. 23. 卑怯者와 愛國者, 「朝鮮日報」.
12. 30. 男尊女卑思考法, 「朝鮮日報」.
12. 30. 除夜頌, 「東亞日報」.
1972. 1. <경찰관에게 주고픈 교훈> 겸 양지덕의 진리—약한 자에게  
겸손함을 알아야—, 「경찰」.
1. 12. 禪家龜鑑과 宗教人, 「朝鮮日報」.
1. 22. 音韻研究의 劃期的 資料(東國正韻 全 6 卷 완질본), 「韓國  
日報」.
2. 1. 教會와 大學生, 「總聯」.
2. <國家安保論> 文化的 基礎—知識人의 勇氣 있는 참여—, 「月  
刊民族」.
2. 나의 主禮辭, 「새교육」.
2. 등산에서 건강을, 「건강의 벗」(柳韓洋行).
3. 新入生에게 주는 글, 「문화비평」.
3. 23. 갈수록 새로운 의술선생의 차취—그의 2周忌를 맞으며—,  
「朝鮮日報」.
4. 子孫의 結婚, 「經協」3·4合併號.
4. 9. 생각하는 計算器, 「讀書新聞」.
5. 學徒로서의 信念, 「世代」.
6. 異常한 風土, 「創造」.
6. 다시 가리 漢拏山 洞窟, 「女性東亞」.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 59~60에 再錄.
7. 老人病患者, 「世代」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 33~35에 再錄.
7. 23. <나의 人生노트> 의길을 달려라, 「讀書新聞」.
8. 南北赤會談 3 백 65 일—韓民族의 自己認識 變화과정 앞에  
서—, 「世代」.
9. 12. 南北赤 서울會談, 「朝鮮日報」.
9. 16. 돌아가는 北의 손님들에게, 「京鄉新聞」.
10. 내 20代 前後의 讀書歷, 「女性東亞」.

1972. 11. 내가 좋아하는 말「心如木石者 始有學道分」, 「女性東亞」.
11. 登山과 寺刹, 「月刊中央」.  
     \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 98~101에 再錄.
12. 男便의 虛榮을 부채질 말라, 「新女苑」.
12. 〈나의 座右銘〉 속임수 없이 성실하게, 「主婦生活」.
12. 15. 言語政策과 國語, 「通信學報」.
1973. 1. 내 人生에 크게 영향을 준 册, 「은행계」.
1. 幸福의 條件/건강, 「女性中央」.
2. 男尊女卑思想에의 挑戰—女性이 맡을 바 社會參與의 課題一, 「新女苑」.
2. 雪原을 오르는 재미, 「世代」.
3. 壬辰倭亂과 儒臣들의 離脫, 「은행계」.
4. 타이타니크號의 沈沒, 「은행계」.
5. 李朝의 準近親結婚, 「은행계」.
5. 〈일제 암흑기〉 결당 속에서 지조를, 「女性東亞」.
5. 停年退職, 「隨筆文學」.  
     \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 102~109에 再錄.
6. 清白吏, 「은행계」.
6. 1. 名著의 思想一世宗의 崇佛과 「月印釋譜」, 「韓國日報」.
7. 宮合, 「은행계」.
7. 27. 巴리 東洋學大會參加記, 「朝鮮日報」.
8. 問題의 第29次 國際東洋學者大會, 「은행계」.
8. 2~11. 〈국제 東洋學者大會參加記〉 巴리에서 있었던 일, 「朝鮮日報」.
8. 25. 大學을 떠나려 하니, 「東亞日報」.
8. 28~9. 19. 〈停年退職하는 碩學들의 回顧記·老教授와 캠퍼스와 學生「京鄉新聞」.
9. 史實의 造作과 混同(成三間의 詩와 讓寧大君의 平壤訪問), 「은행계」.
9. 1. 海水浴場의 教養, 「박물관 신문」.  
     \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 71~73에 再錄.

1973. 9. 3. 退任의 辭, 「大學新聞」.
9. 18. 견기運動의 生活化, 「朝鮮日報」.  
 \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 110~114에 再錄.
9. 23. 下水道稅와 豪華住宅, 「週刊朝鮮」.
10. 古代印度人의 思考力, 「은행계」.
10. 교사의 반성, 「교사의 벗」.
11. 平信徒 使徒職에 관하여, 「司牧」.
12. 聖誕을 맞이하는 우리의 態度, 「종현」.
12. 李朝의 陶磁工, 「은행계」.
- 젊어서의 고난은 값비싼 것, 「청우」.
1974. 1. 賢珠, 「韓國文學」.
1. 李朝歷代 임금의 短命과 그 生活, 「은행계」.
1. 〈나의 座右銘〉 한눈을 팔지 말고 의길을 달려라, 「國稅」.
1. 4. 값있게 살고 싶다. 「京鄉新聞」.
2. 夫婦登山, 「女性東亞」.  
 \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 28~32에 再錄.
2. 〈내 生涯, 歡喜의 순간〉 一生을 지배하는 卒業論文의 우등상, 「主婦生活」.
2. 崔萬里에 대한 辯護, 「은행계」.
2. 25. 〈졸업생에게 부치는 글〉 사회 발전에 역군되라, 「漢大新聞」.
3. 雜書有感, 「讀書餘話」.
3. 女性의 自覺, 「新女苑」.
3. 東·西洋의 男女交際, 「은행계」.
3. 11. 문리과대학의 사명과 「비전」의 구축, 「漢大新聞」.
4. 北漢山城의 追憶, 「은행계」.
4. 어머니의 苦悶·딸의 呻吟, 「여성中央」.
5. 禁酒令과 새마을운동, 「새마을」創刊號.
5. 登山과 山林保護, 「世代」.
- \* 山 좋아 山을 타니(1978), pp. 61~64에 再錄.
5. 道峰山 老夫婦의 自殺, 「은행계」.
6. 道峰山悲話, 「中央」.

- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 39~42에 再錄.
1974. 6. 그래도 움직인다의 精神, 「은행계」.  
 7. 「東京」이 도오교냐, 동경이냐, 「은행계」.  
 7. 자주 接하고 努力해야만 理解되는 自然, 「여성中央」.  
 8. 山岳征服의 野望들, 「은행계」.  
 9. 나의 趣味, 「月刊中央」.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 84~85에 再錄.
9. 韓國學의 發展과 各國의 現況, 「은행계」.  
 9. 登山과 學問의 天福, 「月刊中央」.  
 9. 幅闊은 讀書와 치밀한 思考, 「世代」.  
 9. 韓服의 女人像, 「쥬단학」.  
 9. 〈학문을 통한 발전〉 악차고, 다라지고, 야무지기, 「OB 社報」.  
 9. 2. 不娶同性, 「서울신문」.  
 9. 9. 西山大師의 警句, 「서울신문」.  
 9. 17. 美國시민권, 「서울신문」.  
 9. 23. 口頭애국, 「서울신문」.  
 10. 〈나의 생활철학〉 행복의 자자, 「새생명」.  
 10. 不娶同性, 「은행계」.  
 10. 1. 意識構造의 變革, 「서울신문」.  
 11. 南漢山城 說話의 問題點, 「은행계」.  
 11. 18. 겨울의 승마, 「漢大新聞」.  
 12. 燕山君과 그의 詩, 「은행계」.  
 12. 哀妻의 哀曲(나의 愛誦詩, 愛妻詩, 李匡師作), 「女性東亞」.  
 12. 〈愛煙家의 弁〉 담배가 없으면 세상은 한총 적적하지 않으랴,  
     「염연초」 제38호.
1975. 1. 니콜라스 포페—소련出身의 蒙古語學者—, 「은행계」.  
 1. 〈나의 어머니〉 배와 함께 母情을..., 「主婦生活」.  
 1. 직장과 「나」의 관계—화이자 가족의 형성—, 「화이자의 광장」 제11호.  
 2. 西山大師의 碑家龜鑑, 「은행계」.  
 3. 世宗大王의 私生活(1)—그의 鬪病과 苦憫—, 「은행계」.

1975. 3. 女性은 스스로의 社會的 地位를 自覺하라, 「女苑」.
3. 인생의 출발과 후분, 「열매」.
3. 壬辰倭亂과 愛國心—責任과 義務에 죽을 줄 아는 정신 그 것이 곧 愛精神이다—, 「치안」.
4. 世宗大王의 私生活(2)—그의 佛教徒의 生活感情—, 「은행 계」.
4. 2. 女性의 地位, 「內外경제」.
4. 9. 儒教의 近代化, 「內外경제」.
4. 16. 公衆道義, 「內外경제」.
4. 23. 戀愛·韓國의 풍토, 「內外경제」.
4. 27. 公害의 가지가지, 「內外경제」.
- 4~6. 李朝初期의 譯經事業①~③, 「法施」.
5. 世宗大王의 私生活(3)—景福宮忌避와 放浪生活—, 「은행 계」.
6. 野史의 危險性, 「은행계」.
6. 21. 나의 學窓時節, 「日刊스포츠」.
6. 21. 山길을 걸노라면……, 「朝鮮日報」.
7. 왜 초조하게 養기며 살아, 「現代人 디아제스트」.
7. 老人五福, 「月刊中央」.
7. <다시 登校하는 나의 아들딸에게> 大學의 危機는 實力의 低下에, 「世代」.
7. G.J. 람스베트博士, 「은행계」.
8. 나의 避署法, 「國稅」.
8. 隱語考, 「은행계」.
9. 分수를 아는 생활, 「새길」.
9. 來韓한 外國 穎學들, 「은행계」.
9. 現代女性의 살롱회화, 「眞珠」.
9. 24. 나의 讀書法, 「東亞日報」.
10. 博士稱號, 「은행계」.
10. 생활습기와 교양의 지침서 : 內訓과 小學, 「主婦生活」.
10. 13. <한자와 전통문화> 왜 한자가 필요한가, 「漢大新聞」.

1975. 10. 15. 世宗大王의 訓民正音制定에 대하여, 「弘大學報」.
11. 外國과 韓國의 教授制度, 「은행계」.
  11. 「實錄」에 나타난 佯狂의 眞偽, 「月刊中央」.
  11. 새마을 指導者 研修, 「農園」.
  12. 젊은 讀書人에게 보내는 便紙, 「月刊 讀書生活」.
  12. 30. 除夜頌, 「東亞日報」.
- 12~76. 1. 歷史上 詛傳된 事實들①②, 「은행계」.
1976. 1. 수행하는 자세로, 「法施」.
1. 11. 나의 儲悔錄, 「讀書新聞」.
    - \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 15~22에 再錄.
  2. 젊은이의 모험, 「샘터」.
  2. 住宅哲學, 「女性東亞」.
    - \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 90~94에 再錄.
  2. 獨島問題, 「은행계」.
  2. 14. 〈마음 속에 남는 사람〉 日 言語學者 小林英夫教授, 「日刊스포츠」.
  2. 27. 젊음은 인생의 芽, 「聖醫學報」.
  3. 物資愛用과 天福의 維持, 「季刊生協」.
  3. 미친듯이 공부했던 나, 「열매」.
  3. 〈20代 女性에게〉 頂點의 調和美學, 「女性 世界」.
  3. 作業開始, 「隨筆文學」.
    - \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 43~46에 再錄.
- 3~4. 內人の 社會(一)(二), 「은행계」.
4. 술, 「機械工業」.
  4. 美國教育制度導入의 非現實性, 「新東亞」.
  4. 마음이 아름답지 않으면 아무도 아름답지 않다, 「女性中央」.
  4. 父母님의 恩惠, 「佛光」.
  4. 主禮의 고민, 「신앙계」.
  4. 雨中의 銀頭山行, 「世代」.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 47~50에 再錄.
- 4~10. 回顧記①~④, 「서울大學校 同窓會報」.

1976. 5. 警民編의 刑法, 「은행계」.
5. <우리집 家訓, 남기고 싶은 家訓> 교만하지 말라, 「月刊中央」.
5. 오월의 하늘과 같이, 「소년생활」.
6. 平壤살이 十二年, 「北韓」.
6. 유교의 近代化, 「민주공화보」.
6. 言語政策, 「은행계」.
6. 手榴彈 被襲, 「韓國文學」.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 81~83에 再錄.
6. 老人病, 「月刊中央」.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 74~78에 再錄.
7. 여름放學과 登山, 「教育管理技術」.
7. 李朝의 科舉制度와 타락, 「은행계」.
7. 휴가를 어떻게 보낼까, 「三星」.
8. 老人病, 「アジア公論」.
8. 30次 國際東洋學者大會—아시아 및 北아프리카 인문과학  
국제대회—, 「은행계」.
8. 여름을 이기자, 「現代人 디제스트」.
8. 詩人 燕山君의 새 開拓, 「韓國文學」.
8. 18. 멕시코 東洋學者大會에 다녀와서, 「東亞日報」.
9. 멕시코 見聞記, 「은행계」.
9. 31. 讀書遍歷, 「釜山新聞」.
1. 世界로 뻗어가는 韓國人, 「은행계」.
10. 4. 學界 三十年의 回顧, 「서강 타임스」.
11. 金正浩에의 새로운 認識, 「은행계」.
11. 풋사랑, 「女性世界」.
11. 오늘에 빛을 주자, 「佛光」.
11. 木石같은 사람, 「法施」.
- \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 79~80에 再錄.
11. 漢字教育은 왜 필요한가, 「現代人 디제스트」.
11. 29. 龍頭蛇尾, 「京鄉新聞」.

1976. 12. 韓國語의 系統, 「은행계」.
12. 山林綠化의 뒤안길, 「자연보존」.
  12. 13. 幸福을 構築하는 길, 「京鄉新聞」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 23~27에 再錄.
1977. 1. 物名雜考, 「은행계」.
1. 10. 東京과 도쿄, 「京鄉新聞」.
  1. 12. <韓國人의 外國風物 受容> 現代의 課題와 우리의 姿勢, 「國民大學報」.
  2. 깨끗한 人間像, 「佛光」.
  2. 著作權問題, 「은행계」.
  2. 大使에의 教諭을 받고, 「現代人 디아제스트」.
  2. 6. 國文學史에 남을 業績—梁柱東박사의 許音을 듣고—, 「韓國日報」.
  2. 17. 「無碍清淨」의 哲人——海李世楨선생 5週忌에 붙여—, 「새한신문」.
  2. 27. 젊은 世代는 勇敢해졌다, 「讀書新聞」.
  5. 너절하게 죽는구나, 「女性東亞」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 51~55에 再錄.
  5. 崔溥의 漂海錄, 「은행계」.
  5. 7. 또한번 大學生이 된다면, 「日刊스포츠」.
  6. 우리 國民은 반드시 飛躍한다, 「금성가족」.
  6. 張漢喆의 漂海錄, 「은행계」.
  6. 등산을 즐기며, 「隨想」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 67~70에 再錄.
  6. 12. '77 韓國 에베레스트 壯途에 붙여, 「日刊스포츠」.  
\* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 143~144에 再錄.
  6. 26. 變貌하는 젊은이 倫理性, 「충남일보」.
  6. 27. 名士交遊圖, 「週刊시민」.
  7. 모욕과 친대를 이긴 崔世珍, 「샘터」.
  7. 雄壯·絕妙한 靈山, 「讀書生活」.
  7. 1. 여가선용 有感, 「보령」.

1977. 7. 23. 바다와 絶縁, 「京鄉新聞」.  
     \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 56~58에 再錄.
8. 옛날의 處刑, 「은행계」.
8. 「표준말」改定案 소식을 듣고, 「週刊시민」.
9. 文化政策의 方向摸索, 「月刊世代」.
9. 壬辰亂과 우리 陶磁工, 「은행계」.
9. 좋은 결정, 나쁜 결정, 「엘레강스」.
9. 11. 〈名士들이 말하는 해저善用〉登山, 「해저時代」.
9. 16. 〈語文教育 이대로가 좋은가〉 시들해지는 國語醇化운동, 「朝鮮日報」.
9. 18. 에베레스트峰 征服의 소식을 듣고, 「韓國日報」.  
     \* 산 좋아 산을 타니(1978), pp. 145~147에 再錄.
10. 연애 할 수 있는 자격, 「主婦生活」.
10. 히말라야의 에베레스트峰, 「은행계」.
10. 삶을 경제한 生活의 古典, 「主婦生活」.
10. 31. 學問探究, 「漢大學報」.
11. 성실한 직장인, 「QC 서어클」.
11. 責任을 져라, 辨明마라, 「三養社報」.
11. 躍進하는 韓國의 氣像—에베레스트 登頂과 관련해서—, 「시사」.
11. 五岳과 鎮山, 「은행계」.
11. 12. 「한가람」이 지닌 뜻, 「隔月刊 한가람」創刊號.
12. 山岳保存—山岳人이 본 荒廢相一, 「國會報」 11, 12 月號.
12. 出嫁外人과 百年之客, 「여성中央」.
12. 世宗大王의 轉地療養, 「은행계」.
12. 禁酒를 권하면서, 「새마을」.
12. 11. 〈한국知性의 座標〉 나의 中心概念, 「讀書新聞」.
1977. 내 江山 내 山河—한낱 登山人으로서의 體驗에서—, 「국민 회의보」 제 20 號.
1. 다소곳이 반기면 C양, 「엘레강스」.
1. 山, 山을 어떻게 아낄 것인가, 「月刊世代」.

1978. 1. 宗敎書籍을 通한 感銘, 「讀書」.
1. 나의 座右銘, 「太平洋社報」.
  1. 말(馬) No. 1, 「은행계」.
  2. 말(No. 2) — 馬政과 牧場 —, 「은행계」.
  2. 職場生活에서 보람을 찾는 길, 「대한전선사보」.
  2. 文化와 民族, 「月刊 文藝振興」.
  2. 8. 女性의 結婚資格, 「현대경제일보」.
  2. 15. 禪家龜鑑 三則, 「현대경제일보」.
  2. 22. 妙한 計算法, 「현대경제일보」.
  3. 大學에 進學하는 新入生들에게, 「月刊世代」.
  3. 壬辰倭亂과 女性의 受難, 「은행계」.
  4. 當爲와 實在의 生活面, 「醫藥情報」.
  4. 나무를 심어 푸른 江山을 가꾸자 — 虛點을 살피고 꾸준한 努力을..., 「시사」.
  4. 李朝 歷代 王의 子女數, 「은행계」.
  4. 작은 山보다 큰 山으로 오르라, 「엘베강스」.
  4. 등산, 「現代」.
  5. 李朝 女性의 이름, 「은행계」.
  6. 壬辰倭亂에 관한 西洋神父의 手記 — 특히 小西行長軍의 困境을 中心으로 —, 「은행계」.
  6. 3. 生의 마지막날까지, 「京鄉新聞」.
  6. 9~9. 1. 나의 履歷書, 「韓國日報」(63회 연재).
  7. 하늘엔 빛나는 月, 포켓엔 한권의 책, 「나나」.
  7. 夕陽 산책길에서 詩 한 구절쯤 읊는 女子, 「모아」.
  7. 世宗때의 集賢殿, 「은행계」.
  7. 8. 國語醇化는 家庭에서부터, 「朝鮮日報」.
  8. 風이 風土의 改善을, 「새마을」.
  - 8~10. 壬辰亂 回憶記(上)(中)(下) — 儒臣들의 踏亡치는 記錄 —, 「은행계」.
  9. 사람은 무엇이 다를까? 「엠디」(종근당).
  9. 말 많은 세상의 「말조심」, 「主婦生活」.

1978. 10. 가을과 건강, 「새교실」.
10. 누가 幸福할까, 「새농민」.
10. 觀光資源 보호에 앞장 서자, 「시사」.
10. 言語는 大衆의 것, 「眞珠」.
11. 젊은이의 추태, 「觀光生活」.
11. <특집 : 전전한 기업 · 전전한 직장인> 믿고 일하며 사회에 봉사하는 企業과 職場人, 「鮮京」.
11. 最後의 目標, 「月刊 정훈」.
12. 家族法 有感, 「女性東亞」.
12. 죽어가는 강물을 살리자, 「새마을」.
12. 옛날과 오늘의 우리의 存在, 「海外建設」.
12. 2. 日式발음과 主體性, 「東亞日報」.
12. 9. 外來語의 入國루트, 「東亞日報」.
12. 18. 옛날의 養兵論, 「東亞日報」.
12. 18. 「語文關係改正試案」 이렇게 본다, 「中央日報」.
12. 19. 맞춤법은 固定시켜야 한다, 「韓國日報」.
12. 25. 아파트와 老人, 「東亞日報」.
1978. 결혼 그 준비와 실제, 「木花」(同德女大).
1978. 「8·15」 그 感激, 「질」 6 號.
1979. 1. 부지런하고 점잖은 국민, 「밀풀」.
1. 庭園과 人生, 「心像」.
1. 己未年의 羊이야기, 「은행계」.
1. 호미자루에도 새 뜻을, 「새농민」.
1. 8. <각계 名士들이 엮는 새해 斷想> 移徙를 가야 하겠지만, 「京鄉新聞」.
1. 12. 選舉區民, 「內外經濟」.
2. 진정한 國民外交, 「밀풀」.
2. 鷹鵠考, 「은행계」.
3. 濟州島의 柑橘, 「자연보호」.
3. 韓國人の 體貌와 權威, 「밀풀」.
3. 濟州 밀감재배의 교훈, 「은행계」.

1979. 4. 松虫과 政治哲學, 「은행계」.
4. 韓國의 이미지를 바꾸려면, 「밀물」.
4. 동양적 철인의 태도, 「럭키 그룹」.
5. 출가하는 젊은 여성들에게, 「대농」.
5. 謙虛 뒤에 主體性을, 「밀물」.
5. 困年파 도토리, 「은행계」.
6. 인체에 유해되는 것은 삼간다, 「새마음」.
6. 2. 열음같이 찬 靈柩로 故國에 돌아오다니……, 「韓國日報」.
6. 새 生活의 構築, 「蓄產振興」.
6. 교양이 있는 국민, 「밀물」.
7. 李朝王室의 譯經事業, 「은행계」.
8. 島嶼文化의 遺產, 「은행계」.
8. 8·15 光復의 理念과 感激, 「시사」.
8. 등산(登山)은 유일한 나의 건강, 「보건세계」.
8. 밥풀 한 알이라도, 「女苑」.
9. 한글날의 새 解釋, 「은행계」.
9. 高物價時代의 最小 모렬, 「月刊中央」.
9. 마비킹과 사람의 차이—「독서 않는 국민」이란 오명 벗을 때……, 「대우가족」.
9. 落葉소리를 들으며, 「國稅」.
9. 6. 明朗한 가을을 맞자, 「每日經濟新聞」.
9. 10. 잊을 수 없는 그때 그 친구—「巨人」故 方鍾鉉교수, 「京鄉新聞」.
9. 10. 主體有感, 「체신」.
9. 11. 잊을 수 없는 그때 그 친구—幕後鬥士 金載元박사, 「京鄉新聞」.
9. 12. 잊을 수 없는 그때 그 친구—山사나이 故 鄭仁昊씨, 「京鄉新聞」.
9. 13. 잊을 수 없는 그때 그 친구—멋장이 李相伯박사, 「京鄉新聞」.
9. 14. 잊을 수 없는 그때 그 친구—快男兒 李敏載박사, 「京鄉

新聞」。

1979. 9. 27. この人, 「東京新聞」。

10. <터놓고 말해 봅시다> 士別三日이면 刮目相對라는데, 「中央」。
10. 和蘭船 濟州島 難破, 「은행계」。
10. 微笑를 되고 사람을 대하라, 「미소」。
11. 李朝王室의 早婚과 壽命, 「은행계」。
11. 내 인생관을 설정해 준 명저, 「女苑」。
11. 自然保護와 人間生活, 「시사」。
11. 韓國의인 위의 獨創의 加工, 「世代」。
12. 우리는 우리 나라 人物을 두둔하자, 「은행계」。

1979. 하나님은 公平하시다, 「홈닥터」 제 49 호.

1980. 1. 가난한 집에서 태어난 인물들, 「아쿠르트」。

1. 「庚申」풀이, 「은행계」。
3. 「韓國精神文化研究院」이란 ?, 「은행계」。

3. 4. 大學의 再建, 「서울新聞」。

4. 18. <學園民主化 바람직한 運動> 過激運動은 피해야, 「東亞日報」。

5. 21. “韓國的 情緒” をめぐつて, 「統一日報」。

7. <아버님께서 가르쳐 주신 지혜> 빠르고자 하지 말고 서서히, 게으르지 말고 부지런히 일하라. 「전강의 벗」。

7. 안차고 다라지고 물고 늘어져라, 「東方」。

7. 좋은 벗을 가져라, 「백조」。

7. 8. 철듣고 낚추는 習性, 「국제신문」。

7. 24. <우리집 여름휴가> 단출하게 배낭꾸려 雪岳山으로, 「東亞日報」。

8. 8. 「파랑새」호의 소식을 듣고, 「東亞日報」。

8. 21. 새 時代의 歷史의 의미, 「朝鮮日報」。

9. 大學의 再建, 「서울新聞」。

9. 등산예찬, 「趣味」。

9. 자연보호의 세 사건, 「열매」。

1980. 9. 自主人의 자랑스러운 感情, 「關友」.
9. 〈職場人을 위한 讀書論〉 좋은 책은 좋은 친구와 같다, 「三星」.
9. 천직의식, 「럭키그룹」.
9. 2. 새時代 새政府에 바란다, 「東亞日報」.
9. 10. 自然保護는 왜 필요한가—자연보호현장 선포 2주년을 맞으면서—, 「시사」.
9. 12. 〈풍요한 삶을 위해〉 讀書를 生活化하자, 「미도파」.
10. 〈오늘을 사는 지혜〉 智의 生活, 「안녕하십니까」.
10. 4. 〈自然食의 지혜〉 배(梨), 「서울新聞」.
12. 交通秩序와 信賴하는 社會, 「月刊 道路交通」.
12. 〈새 警察創造에 거는 期待〉 이렇게 바란다, 「警察考試」.
12. 직업의 인식을 높이자, 「교육자료」.
12. 행복의 꿈을 다져봅시다, 「여성中央」.
1981. 1. 家訓은 곧 가르침, 「새농민」.
1. 「山놈」이 본 鞍시道, 「鞍春秋」.
2. 10. 大學入試에 떨어진 受驗生들에게, 「京都新聞」.
2. 13~21. 〈轉換期의 內幕〉 國大案 반대 盟休 ①~⑥, 「朝鮮日報」.
3. 責任과 義務教育, 「교육자료」.
4. 自然保護教育, 「교육자료」.
5. 傳統과 生活倫理, 「교육자료」.
6. 感覺語에서 풍겨지는 生活哲學, 「文藝中央」.
6. 예절있고 겸소한 혼인, 「새농민」.
7. 나와 내 아들, 「自由公論」.
7. 13. 學究的 側面에서 본 教授의 位相, 「檀國大學新聞」.
7. 25. 안타까운 挑戰一奕단「山의 悲報」를 듣고—, 「서울新聞」.
8. 1. 奇蹟의 남용, 「주간종교」.
8. 5. 神은 公平하시다, 「주간종교」.
8. 10. 또 제기될 동성동분의 결혼문제, 「성심월보」.
8. 13. 〈말씀과 生活〉 마음이 木石같은 者라야 道를 배울 자격 있

느니라〈禪家龜鑑〉, 「京鄉新聞」.

- 1981. 8. 26. 信徒의 執論形成, 「주간종교」.
- 8. 29. 離을수록 氣魄있게 살아야 한다, 「中央日報」
- 9. 口味의 變貌, 「國稅」.
- 9. 2. 教養높은 종교, 「주간종교」
- 10. 행복이란 결코 팔자소판이 아니나니 악착같이 덤비지 말고 때를 기다려라, 「건강의 벗」.
- 10. 나의 琢우명, 「淨化」.
- 10. 4~11. 韓國의 茶 ①②, 「주간독서」.
- 12. 1. <汚名씻기 위한「贖罪의 塔」 세우자. > 심심풀이라도 教師 노름은 안돼, 「中央日報」.
- 12. 30. 長壽의 福, 「中央日報」.
- 1982. 2. 辭職書, 「月刊 文化財」.
- 3. 출세주의의 해독, 「한농」.
- 4. <나의 생활신조> 한눈을 팔지 않는다, 「샘터」.
- 4. 24. 聖職者의 所任, 「서울新聞」.
- 5. 의식개혁—출세주의의 추방—, 「새길」.
- 5. 서울大 精神, 「서울大學校 同窓會報」.
- 5. 19. <一生一書> 小學, 「中央日報」.
- 5. 31. 學問의 獨創性의 構想—外國學說의 追從에 限界있다—, 「서울大學新聞」.
- 6. 책임과 의무의 관념, 「새길」.
- 6. <나의 건강비결> 절제와 인내가 건강을 놓는다, 「새농민」.
- 6. <서울大 정신> 사랑스런 師弟一體의 精神姿勢, 「서울大學校 同窓會報」.
- 7. 궁합시비, 「안녕하십니까」(한일藥品).
- 9. 시련의 극복, 당당한 인생을 가꾸라, 「三星」.
- 9. 올림픽이 걱정된다, 「交通安全」.
- 9. 분수를 지키며 사는 사람이 나라의 보배, 「한국인」.
- 9. 2. <9월의 山(北漢山)> 首都를 끌어보는 4季의 峻峰, 「서울新聞」.

1982. 10. 독서—진정한 교양인의 길—, 「現代精工」.
10. 새로운 직장인의 마음가짐, 「동아그룹」.
10. 가을과 인간의 성숙, 「鼎」(日盛新藥).
10. 세종대왕의 큰 뜻, 「밀물」.
10. 16. <時調 초대석> 深夜偶感, 「中央日報」.
12. 세모(歲暮)에 생각나는 일들, 「동아그룹」.
1983. 1. <새해에 바란다> 큰 유행을 눈앞에 두었다, 「女性東亞」.
1. <新年隨感> 새해는 복을 만드는 해로, 「國稅」.
1. <지혜의 章> 지혜의 개척자, 「럭키금성그룹」.
1. 2. 할미와 현주, 「老人生活」.
4. 새시대의 인재(人材)는 책임과 의무의 관념이 뚜렷해야 한다, 「동아그룹」.
5. 감사하는 마음을 갖자, 「大韓生命」.
6. 불같이 산 나의 젊은 시절, 「샘터」.
7. 우리 조상들의 자연보호, 「녹색한국」.
8. 나의 研究生活, 「나의 걸어온 길」(學術院).
8. <TV 시청소감> 우리 한가족이 모두 울었다. 「月刊放送」.
9. <頂上의 人生論> 참는 者가 王이다, 「職場人」.
10. 나라의 試鍊을 이기는 길, 「國稅」.
1984. 1. 활동하는 사람의 새해맞이, 「鮮京」.
1. 1. 「信用社會」이 둑돼야, 「光州日報」.
1. 16. 내마음 속의 名句, 「東亞日報」.
1. 21. 「大器晚成」의 삶은 더욱 값지다. —大學入試에 실패한 後輩들에게—, 「東亞日報」.
2. <나의 삽십대> 깊은 속 감추고 ‘바보교사’ 노릇, 「럭키금성 그룹」.
2. 우리는 모두 이 세상 스쳐가는 나그네들, 「月刊放送」.
2. 직장의 권위자가 되라, 「동아그룹」.
2. 15. 學問의 精銳部隊, 「서울대학교 병원보」.
3. <나는 왜 이 길을 선택했는가> 한 편의 논문과 生의 啓示, 「文學思想」.

1984. 3. 내가 믿고 尊敬하는 警察官 諸位여, 「月刊 搜查研究」.
3. 시간과 노력의 지속, 「안녕하십니까」(한일藥品).
3. 자연의 죽음에 보내는弔辭, 「月刊 政經文化」.
3. 創意力있는 職場人이 되라, 「東邦」.
3. 14. 學位의 平價切下, 「釜山日報」.
4. <내가 받은 가정교육> 흡 잡을 끗 없는 위대한 인물로 비친 나의 부모님, 「엄마랑 아기랑」(샘터).
4. 한국인의 품위, 「밀물」.
4. 10. 學問을 아는 社會, 「釜山日報」.
4. 24. 대학制度의 反省, 「釜山日報」.
5. 건강한 육체, 정신은 생활의 뼛, 「롯데」.
5. 19. <나의 30代> 우울했던「바보教師행세」, 「東亞日報」.
6. 그 먼저 한줄기 불길한 예감이, 「文學思想」.
6. 6월의 회상, 「동아그룹」.
6. <住居환경> 옛날과 오늘, 「建設과 資材」.
6. 출세주의를 버려라, 「油公」.
6. 27. <나의 20代> 미친듯이 공부, 공부에만 몰두, 「釜山日報」.
7. 말조심과 단결, 「油公」.
7. 우리가 직장에서 설 땅은 어딘가, 「장미」.
7. 主禮人生, 「럭키금성」 창간호.
7. 책임을 다하는 정신, 「油公」.
8. 새 시대에 들어설 새 각오, 「제일생명보험」 창간호.
8. 시대에 맞게 의식도 깨어야 한다, 「영례이디」.
8. 인간과 언어, 「인간개발」(韓國人間開發研究院).
8. 직장과 가정의 일체구성, 「油公」.
8. 푸르지 못한 푸르름, 「文學思想」.
8. 1. 中間의 증인, 「毎日經濟新聞」.
8. 8. 女權伸張, 「毎日經濟新聞」.
8. 16. 李朝의 兵役, 「毎日經濟新聞」.
8. 23. 李朝王들의 壽命, 「毎日經濟新聞」.
8. 29. 壬辰亂과 비겁, 「毎日經濟新聞」.

1984. 9. 고생은 인간을 만드는 길, 「地籍」.
9. 新舊世代와 우리의 態度, 「石油와 潤滑」.
9. 편지가 있으매 천리도 지쳐, 「편지」.
10. 개천절에 즐음해서, 「新世界」.
10. 안차고 다라지고 물고 늘어져라, 「油公」.
12. 새해를 맞는 마음, 「국민투신」.
1985. 11. 〈육립의 날을 맞아〉 나무를 사랑합시다, 「우리열」(한국청소년연맹).
1986. 3. 새 직장인들에게, 「鮮京」.
4. 우리는 우수한 민족이나, 단결을 못한다, 「대농」.
5. 민족단결의 반성과 새출발, 「柳鏡」(柳韓洋行).
5. 어머니의 추상(追想), 「동아그룹」.
6. 마음이 나무나 돌 같아야, 「道路交通」(도로교통안전협회).
7. 老妄의 學究生活, 「月刊朝鮮」.
7. 韓國의 놀이 文化, 「동아제약」.
8. 〈나의 어린시절〉 어머니의 추억, 「어린이 새농민」.
9. 23. 〈내 인생 소중한 말〉 목석같은 자라야 비로소 도를 배울 자격  
이 있다—서산대사가 쓴 '禪家龜鑑' 중에서—, 「해이더 京鄉」.
10. 〈행복한 老後를 위하여〉 뚜렷한 목표를 가지고 사는 것,  
「老人生活」 9, 10 월 합병호.
11. 내 證人戰術, 「關稅」.
12. 苛酷한 人物評, 「文學精神」.
12. 다급한 日程, 「新東亞」.
12. 〈두고두고 생각나는 사람〉 오늘의 나를 만들어 준 분, 「法輪」.
12. 〈送年隨感〉 제석(除夕)의 祈願—丙寅年을 보내면서—, 「國稅」.
1987. 1. 5~ 나의 學問遍歷, 「每日經濟新聞」.